

OSAKA MUSEUMS

Vol.19

特集 大阪中之島美術館

あたらしい 美術館のかたち

2022年2月2日の開館に向けて、
着々と準備が進む「大阪中之島美術館」。
長らく大阪になかった大型美術館として、
今から期待が高まる『新しいアートの拠点』へと、
ひと足早くご案内します。



TAKE FREE
2021 2022
12→3月

A Day in the Life of a Curator

学芸員の一日

特別編

発掘! 中之島ヒストリー

1

大阪市文化財協会

学芸員 岡村勝行さん



現在、大阪中之島美術館が立つ場所で見つかった「御殿」玄関部分。左後方の建物は大阪市立科学館(1998年撮影)。



上／発掘調査が反映された広島藩大坂蔵敷復元模型。当時の広大な蔵敷の様子が伺える(大阪歴史博物館9階に展示)。左／建物の下に張り巡らされた石組排水路と蔵跡。蔵敷の構造をよく伝える。



右／炉や送風管の破片、鋳型など、鉄製品の鋳造を示す遺物が廃棄された穴。左／生活ゴミを捨てた大きな穴。牡蠣の貝殻や磁器片などを捨てた後、穴を埋め戻しているのがわかる。



「蔵敷には長屋もあり、屋敷で働く多くの人が住み、とても活気があったようです」という岡村さんは、新美術館建設に伴って1995年に始まつた広島藩蔵敷の広大な敷地には蔵だけでなく、堂島川につながる舟入や藩主が滞在した御殿の遺構も出土。さらに、建物の下で排水を流す石組の暗渠や、日常の生活ゴミを埋めた一辺2mもある大きな穴など、当時の

大阪中之島美術館の誕生で話題を集め中之島。江戸時代には、この一帯は諸藩の蔵敷が建ち並び、今に至るまで大阪の商業・文化の中心であり続けています。日本史の教科書にも必ず登場する蔵敷ですが、今のような絶景な倉庫街とは違って、多くの人々が暮らしを営む場所だったようです。

「蔵敷には長屋もあり、屋敷で働く多くの人が住み、とても活気があったようです」という岡村さんは、新美術館建設に伴つて1995年に始まつた広島藩蔵敷の広大な敷地には蔵だけでなく、堂島川につながる舟入や藩主が滞在した御殿の遺構も出土。さらに、建物の下で排水を流す石組の暗渠や、日常の生活ゴミを埋めた一辺2mもある大きな穴など、当時の

大阪中之島美術館の誕生で話題を集め中之島。江戸時代には、この一帯は諸藩の蔵敷が建ち並び、今に至るまで大阪の商業・文化の中心であり続けています。日本史の教科書にも必ず登場する蔵敷ですが、今のような絶景な倉庫街とは違って、多くの人々が暮らしを営む場所だったようです。

蔵敷は「天下の台所」の象徴。大阪にとって特別な存在です。

生活を想像できる跡も発見されました。

また、「蔵敷では米、地方の特産品を取り扱われ、広島各地の郡や村の名前を記した荷札、当時の特産品の遺物も多く見られます」と岡村さん。今も名産の牡蠣の殻や原村焼と呼ばれる薄手で精緻な器など、広島ならではの産物のほか、敷地内に铸造関連の遺物も発見され、特産の一つだった鉄製品の製作が行われていた可能性も。

蔵敷といえば米のイメージですが、実は諸国の大名産が集まる巨大な見本市といつた方が近いかもしれません。「市内には数々の遺跡がありますが、『天下の台所』を象徴する蔵敷は大阪にとつて別格の存在」と岡村さん。近世の中之島にぎわいは、今まで形を変えて、新たな美術館へと受け継がれています。

大阪市文化財協会

〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-6-41
TEL 06-6943-6833
【開館時間】9:00AM ~ 5:00PM
※要事前確認(観覧無料)
【休館日】土曜・日曜・祝日・年末年始(12/28 ~ 1/4)



OSAKA MUSEUMS

Vol.20
2022年3月発行予定

『OSAKA MUSEUMS』では、大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪歴史博物館、大阪中之島美術館、大阪市文化財協会を中心として、大阪市の博物館・美術館の魅力と情報を発信しています。

『OSAKA MUSEUMS』vol.19
2021年12月10日発行

発行／地方独立行政法人 大阪市博物館機構
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32
大阪歴史博物館内
TEL 06-6940-4330 (代表)
制作／丸山印刷株式会社



『OSAKA MUSEUMS』主な設置場所 ▶ 大阪市内の各種情報センター、交通施設、文教施設、観光事業者、ホテル、複合商業施設、区役所ほか



中之島をてくてく歩いて名作を写真でコレクション!

スマートフォン片手に中之島を散歩しながら、エリア内の施設にある所蔵作品の写真を集めるデジタルスタンプラリー、「アートなさんぽ」が2022年2月28日まで開催中。開館に先駆けて、貴重な名画に描かれた世界を巡り、自分だけの物語を楽しめます。作品画像を集めいくと、抽選で美術館オリジナルグッズをプレゼント(詳細は特設サイトをご覧ください)。

※掲出場所が閉鎖している場合は、撮影をお控えください。



チケットを予約してスマートに展覧会へ

12月1日から、大阪中之島美術館のチケット予約サイトがオープン。事前にチケット入手しておけば、入館もスムーズに。開館記念展「Hello! Super Collection 超コレクション展—99のものがたりー」のチケットも、販売中!



「大阪中之島美術館」ができるまで

1983年

山本發次郎氏のご遺族より佐伯祐三作品を含む約580点が大阪市に寄贈。市制100周年(1989年)記念事業のひとつとして「大阪市立近代美術館(仮称)」整備を発表



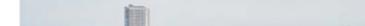
1990年

「大阪市立近代美術館(仮称)建設準備室」が開設。90年代には準備室が企画する展覧会を年1~2回開催



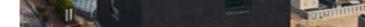
1991年

「近代美術館基本計画委員会」を設置



2004年

コレクションの展示を行う「心斎橋展示室」を開館(~2012年)。展覧会を年2~3回開催



2009年

時代に即した整備を進めるため「近代美術館あり方検討委員会」を設置



2014年

「新美術館整備方針(案)」を策定



2019年

2月、建設に着工



2021年

6月、建物が竣工



2022年

2月2日、開館



中之島に誕生する、新たなアートスポットに注目

水の都・大阪の中心である中之島に、姿を現した斬新な建築が話題の「大阪中之島美術館」。新たな美術館が、実現するまでにたどってきた道のりと、大阪の街との結びつきをご紹介します。

今年6月、都会のビル群の中に現れた大きな、黒い直方体。約2年半の工期を経て竣工した「大阪中之島美術館」は、大阪に久しぶりに誕生する新たな美術館として、開館前から多くの注目を集めています。

新美術館構想が実現

実は、この美術館が構想されたのは、なんと40年前。90年代のバブル崩壊を経て、美術館を取り巻く社会状況や市民の期待は大きく変化し、その度に計画を練り直して、常にその時代に合った美術館を模索してきました。当初の美術館の構想は、2000年代に入つて、施設のあり方や展示内容をゼロから再検討。最終的な計画ができたのは2014年のことでした。そのまま建物がなかつた時期にも、市内で展覧会を開催するなどの活動を継続。現在までに形作られたコレクションは、大阪中之島美術館の大きな土台になっています。

文化施設が集中する中之島の新たな核に

国内でも最大級の展示室を擁する「大阪中之島美術館」は、民間企業のノウハウを活用して公共サービスを提供する「PFICONセッション方式」を、日本の美術館として初めて採用。大阪らしい「民の力」を活かした運営により、社会教育施設としての機能にとどまらず、地域の活動や観光の拠点を担う存在を目指しています。

また、周辺施設との連携も大きな役割の一つ。館内には自由通り抜けできるパッサージュ(通路)を設けるほか、隣接する国際美術館や大阪市立科学館とは連絡デッキで接続する予定。さらに、様々な施設とのつながりを活かした企画展やイベントも予定されています。

この先も、未来医療国際拠点や地下鉄などにわ筋線の建設など、大きく変貌を遂げそうな中之島。さらに魅力を増しつつあるエリザベスとして、新たな美術館に期待は膨らむばかりです。

「美術館が建つ中之島という街の印象はいかがでした？」

初めて中之島の現場を見たのが2016年。多彩な文化・商業施設が点在していましたが、横のつながりをもつと作ることで個々の魅力を高められるのを感じました。そこで、コンペ〔(仮称)大阪新美術館公募型設計競技〕に臨むにあたりでは、大阪中之島美術館が界隈の結節点になることを意識して、設計案を作成しました。

「それを体現するのが、「パッサージュ」というテーマですね？」

パッサージュとはフランス語で、アーケード付きの路地や歩道のこと。コンペでは、このテーマの解説は設計者に委ねられましたが、エントランスホールやコリドー（回廊）など、言葉を変えて似た機能を持つ施設は他にもあります。ただ、ここでは「人が動く道」をより強調しています。

この建物は入口が多方向に開いていて、1・2階のパッサージュは、まさに通り道として来

うに融合させたのでしょうか？

実は今回の案は、以前に設計した別荘が原型になっていて、それを何十倍にも大きくしたイメージです。その別荘の間取りを美術館に置き換えると、家族が自由に共用する広いリビング・ダイニングがパッサージュ、個別に使う寝室やバスが展示室。開かれたパブリックな場とプライベートな場が、空間としてつながっていながら分けられています。美術館の設計では、この2つの空間を横断するような形を提案しています。

「外観はシンプルですが、中はすごく複雑なのに驚きます。」

外観が印象的ですが、この建築は内部の構造に注力しました。都会の真ん中で、スペースを横には広げられないため、合理的な形として考えたのがパッサージュを十字に積み上げる方法。多層階の上に展示室を置く美術館は珍しいですが、単純な形の中に複雑さを帶びていることが建築の大きな特色です。



眺望

4~5階のパッサージュは、両端の面が開口部として開かれ、空間的に外とのつながりを強調。館内は東西南北に広がる風景を楽しむビュースポットでもあり、来館者は自分が中之島に立っていることを実感できる。(写真・上田 宏)



展示空間

(左から)天井高6m、1700m²と最も広い5階展示室は様々な企画展に対応。主にコレクションを中心とした企画展を開催する4階は1400m²。日本画を展示できるガラスケースを備えた展示室と、「具体美術協会」がかつて拠点としていた中之島の展示施設「グタイナコテカ」にヒントを得た黒い壁面を持つ展示室からなる。



「開館が近づいてきましたが、この美術館に期待することは？」

設計段階で様々な可能性が計画された空間なので、館内の色々な場所を使って展示や企画ができると思います。訪れる皆さんも美術館に対する要望をどんどん伝えて、普段から親しんでもらえば嬉しいですね。

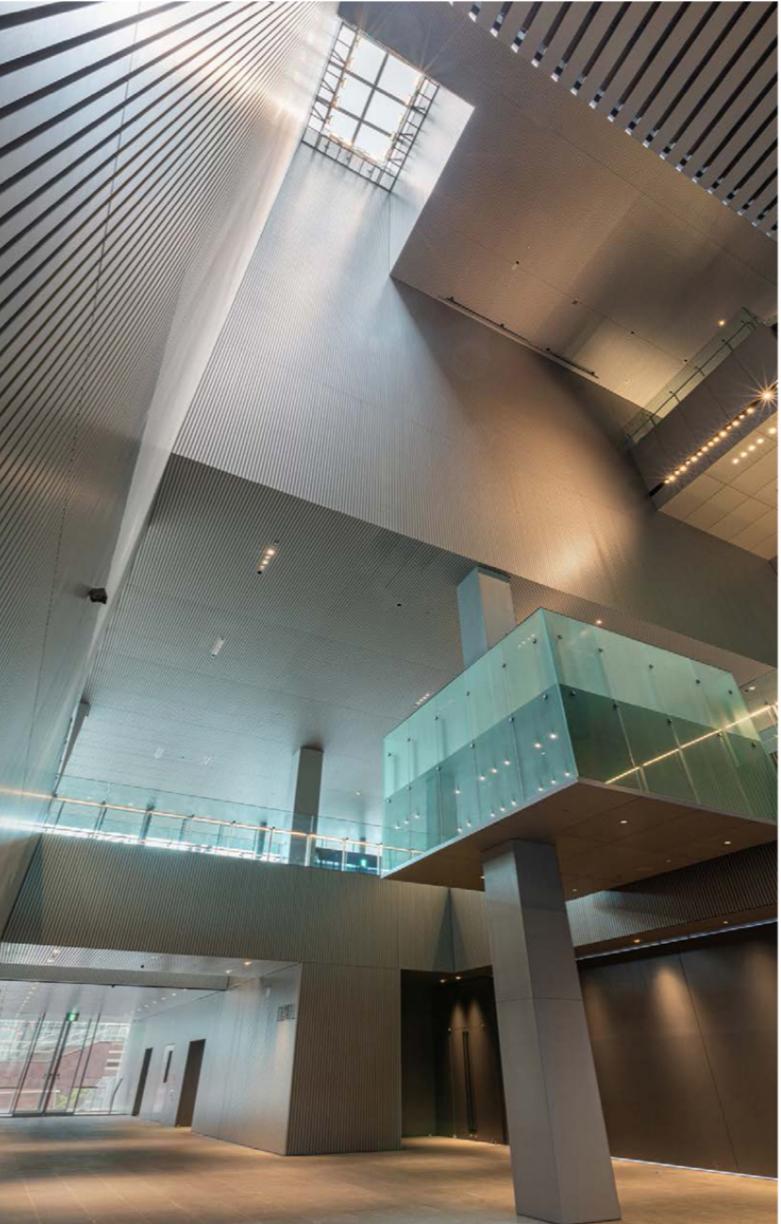
黒い直方体 & ランドスケープ

都心で存在感を放つ黒い直方体。外観をシンプルな形にすることで、館内の複雑な構造や自然光が差し込むパッサージュがより際立つ。周辺の芝生広場は、ランチを食べたり、散策途中の休憩にもぴったり。多彩な植生は、河原をイメージしたデザインとなっている。



「建物の周囲は緑が多くて、憩いの場所になりますですね。」

このランドスケープ（地形）は、建物にとつてもすごく重要。敷地が川より低かったので、2階部分は新しく丘を作ったようなもの。この高さがあつてこそ、黒いヴァオリュームが浮いてるかのように見えるんです。



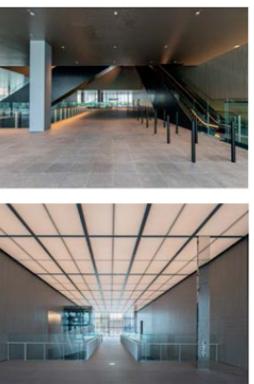
遠藤克彦さん

横浜市生まれ。武蔵工業大学(現東京都市大学)卒業後、東京大学大学院在学中の1997年に遠藤建築研究所を設立。住宅から公共建築、街づくり提案まで対象は多岐に渡り、受賞歴多数。2017年、大阪中之島美術館の公募型設計競技で最優秀受賞。大阪事務所を開設して以来、いまや大阪は“第2のホームタウン”に。



パッサージュ & 吹き抜け

5階建ての館内は、大きな吹き抜けの中にフロアが複雑につながり、天井や窓から入る自然光で立体感がより際立つ。エスカレーターはゆっくり動かすことによって視点の移動を強調し、フロアに引っ掛けたデザインにするなど、人が動く部分に形のアクセントが。一見、クールな印象だが、館内を動くたびに建物の違った表情が見られる。



展覧会スケジュール

12
DEC

2022

1
JAN2
FEB3
MAR

大阪市立美術館

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82(天王寺公園内)

④ 06-6771-4874

[開館時間] 9:30AM ~ 5:00PM

※入館は閉館の30分前まで

[休館日] 月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、2/10

展示替期間(1/17~2/4、2/16~2/25)、

1/10、2/7、3/21は開館、

年末年始(12/30~1/3)

~2022/1/16

特別展
メトロポリタン美術館展
西洋絵画の500年

1870年に創立されたアメリカ・ニューヨークのメトロポリタン美術館は、先史時代から現代まで、5000年以上にわたる世界各地の文化遺産を包括的に所蔵しています。本展では、同館を構成する17部門のうち、ヨーロッパ絵画部門に属する約2500点の所蔵品から、選りすぐられた珠玉の名画65点(うち46点は日本初公開)を展覧します。15世紀の初期ルネサンスの絵画から19世紀のポスト印象派まで、西洋絵画の500年の歴史を彩った巨匠たちの傑作が、一挙来日します。ラファエロ、エル・グレコから、カラヴァッジョ、レンブラント、フェルメール、そしてマネ、モネ、ルノワール、ゴッホ、セザンヌまで、時代順に3章構成でご紹介します。メトロポリタン美術館が誇る至高の名画を、ぜひご堪能ください。

[観覧料] 大人2,100円 高校生・大学生1,500円
※日時指定予約制
[公式サイト] <https://met.exhn.jp/>



カラヴァッジョ(本名 ミケランジェロ・メリージ)
(音楽家たち)
1597年 油彩 / カンヴァス 92.1 x 118.4 cm
ニューヨーク、メトロポリタン美術館
Rogers Fund, 1952 / 52.81

2022/2/5~2/15

特別展
第67回全関西美術展

[観覧料] 大人700円 高校生・大学生500円

2022/2/26~3/21

特別展
第8回日展

[観覧料] 大人1,100円 高校生・大学生700円

大阪市立
自然史博物館

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

④ 06-6697-6221

[開館時間] 9:30AM ~ 4:30PM

※入館は閉館の30分前まで

[休館日] 月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、

年末年始(12/27 ~ 1/4)

[常設展示観覧料] 大人300円、高校生・大学生200円

※特別展は別料金

~2022/1/16

特別展
メトロポリタン美術館展
西洋絵画の500年

1870年に創立されたアメリカ・ニューヨークのメトロポリタン美術館は、先史時代から現代まで、5000年以上にわたる世界各地の文化遺産を包括的に所蔵しています。本展では、同館を構成する17部門のうち、ヨーロッパ絵画部門に属する約2500点の所蔵品から、選りすぐられた珠玉の名画65点(うち46点は日本初公開)を展覧します。15世紀の初期ルネサンスの絵画から19世紀のポスト印象派まで、西洋絵画の500年の歴史を彩った巨匠たちの傑作が、一挙来日します。ラファエロ、エル・グレコから、カラヴァッジョ、レンブラント、フェルメール、そしてマネ、モネ、ルノワール、ゴッホ、セザンヌまで、時代順に3章構成でご紹介します。メトロポリタン美術館が誇る至高の名画を、ぜひご堪能ください。

[観覧料] 大人2,100円 高校生・大学生1,500円
※日時指定予約制
[公式サイト] <https://met.exhn.jp/>

12/11~2022/2/27

テーマ展示
ジュニア自由研究・
標本ギャラリー

大阪市立自然史博物館では、小中高校生の自由研究に関する個別相談に対応し、応援してきました。その成果である生き物や岩石・化石の標本、および生物・地学分野の自由研究を募集し、学芸員のコメントとともに展示します。

2022/1/5~1/30

新春ミニ展示
寅年展

2022(令和4年)は寅(とら)年。自然史博物館本館にて、毎年恒例の新春ミニ展示「寅年展」を開催します。「寅年」に関連して、「トラ」にまつわる様々な生き物を展示します。



キシジトラカミキリ
このなかまは体に黄色と黒の縞模様があることから「トラカミキリ」と呼ばれています。

2022/1/14~4/3

特別展
植物
地球を支える仲間たち

本展は、植物を総合的に紹介するこれまでにない大規模な展覧会です。最新の研究成果をもとに標本や模型、映像、インスタレーション展示などを活用し、私たちの想像を超えるアクティブな植物の生態や魅力に迫ります。



ラフレシア(模型) 京都府立植物園 藏

大阪市立
東洋陶磁美術館

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-26

④ 06-6223-0055

[開館時間] 9:30AM ~ 5:00PM

※入館は閉館の30分前まで

[休館日] 月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、

年末年始(12/27 ~ 1/4)

[常設展示観覧料] 大人300円、高校生・大学生200円

※特別展は別料金

すべての展示をご覧いただけます。

~12/26

コレクション展関連テーマ展示
加彩婦女俑に魅せられて

当館の基礎となった安宅コレクションの代表作の一つ、中国唐時代の「加彩婦女俑」をモチーフに、ジャンルの異なる3人の現代作家が新たな創作に取り組んだ、新しい形のテーマ展示をお楽しみください。



坂爪康太郎
『TOMB LADY MASK feat. GIGAKU STYLE』2021年

~2022/2/6

企画展
受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器

1960~70年代、アメリカ美術の動向を現地で体感し、帰国後、日本のやきもの文化の連続性を保ちつつ、新たな表現を模索する柳原睦夫(1934~)。本展は柳原睦夫作品4点の受贈を記念し、41点の作品と華道家・杉田一弥が花を活けた写真作品16点を併せて展示。



柳原睦夫『繩文式弥生形壺』
2002年 大阪市立東洋陶磁美術館蔵(杉山道夫氏寄贈)
撮影: 麦生田吾吾

企画展

福井夫妻コレクション 古九谷

17世紀のごく短い期間に生産された、鮮麗な色彩による斬新な文様が魅力の色絵磁器は、「古九谷」あるいは「古九谷様式」とも呼ばれています。本展では、関西在住の福井夫妻により約20年にわたり収集された「古九谷」コレクションから28点を紹介します。

「色絵 樹木文 大皿(青手)」
江戸時代・17世紀 古九谷様式 個人蔵

2022/2/7 ~ 2023年秋まで休館予定



大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32

④ 06-6946-5728

[開館時間] 9:30AM ~ 5:00PM

※入館は閉館の30分前まで

[休館日] 月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、

年末年始(12/28 ~ 1/4)

[常設展示観覧料]

大人600円、高校生・大学生400円

すべての展示をご覧いただけます。

~12/20

特集展示
新発見! なにわの考古学2021

令和2年度までに行われた大阪市内における発掘調査の最新成果を、遺物と写真パネルで紹介します。

12/22~2022/2/21

特集展示
大阪、その西へ
—湾岸・河口地域の変遷史—

近世の新田開発で生まれ、近代的な港湾・工場により発展を遂げた大阪市西部の歩みをたどります。



大阪風景画帖 昭和初期 大阪歴史博物館蔵

2022/1/26~3/21

特別企画展
大阪町めぐり 喜連

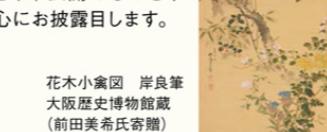
大阪市平野区に所在する「喜連」は、古代の「伎人郷(くれひとごう)」と伝えられ、中世の環濠集落、近世には綿作の中心地として知られます。地元に残る古文書等を通じて、特徴ある喜連の歴史を紹介します。

喜連東遺跡の中世墳墓出土品
平安時代後期~室町時代
大阪市教育委員会蔵
(一財)大阪市文化財協会保管

2022/2/23~4/18

特集展示
新収品
お披露目展

皆様からのご寄贈により近年新たに館蔵品となった作品・資料のうち、未公開のものを中心にお披露目します。

花木小雀図 岸良筆
大阪歴史博物館蔵
(前田美希氏寄贈)

すべての展示をご覧いただけます。

2022/2/7 ~ 2023年秋まで休館予定



大阪市立科学館

〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-1

④ 06-6444-5656

[開館時間] 9:30AM ~ 5:00PM

※展示場の入场は4:30PMまで

※プラネタリウムの最終投影は4:00PMから

[休館日] ~2022/2/1、月曜(祝日の場合は翌平日)

[展示場観覧料]

大人400円、高校生・大学生300円

2022年2月2日、
プラネタリウム
リニューアルオープン!

2022/2/1 (火)まで、施設整備等のため
休館しております。

休館中のオンライン事業については、科学館公式ホームページをご覧ください。

2022/2/2~5/29

プラネタリウム
太陽系グランドツアー

同じ太陽系の天体でも、その姿は様々です。宇宙へ飛び出し、太陽系の惑星などをめぐる旅へ出かけましょう!

プラネタリウム
まだ見ぬ宇宙へ

地球の近くから遠くへと宇宙を旅しましょう。そこで目に見える美しい光景は、あなたが初めて見る宇宙の姿です。

佐伯祐三『郵便配達夫』
1928年 大阪中之島美術館蔵サイエンスショー
振り子のふしき

振り子は同じテンポで揺れるので、時計にも使われます。でも、少し工夫をするふしきな揺れ方をする振り子も!

企画展
色と形のふしき

私たちの身の回りにある美しい色やふしきな形を持つものをを集め、その背景にある科学を探ります。

ホームビデオ・プロジェクト作品展示
テールズアウト

開館プレイベントとして募集した、250本超のホームビデオから、林勇気、荒木悠、柳瀬安里の3人が新たな作品を作成。ホームビデオの変化に見える時代の移り変わりを、世代の異なる作家の目線で読み取り、記録の先にあるものを描き出します(2階多目的スペースほか館内で展示)。

[観覧料] 無料

